

みさかえの園だより

第 21 号 2018 年 2 月

発 行 所

社会福祉法人 聖家族会

発行責任者 西村和子

編集 法人事務局

☎859-0167長崎県諫早市

小長井町遠竹2747-6

☎ 0957 - 34 - 4520

FAX 0957 - 34 - 4521

[年 2 回 (8 月 / 1 月) 発行]

山の上のともしび

社会福祉法人

聖家族会

理事長

西村 和子

昨年二月に前理事長シスターフラ
ンシスカ中山から、理事長職を引き
ついでシスターカリスタ西村和子で
ございます。

初代理事長であるシスター中山が
ずっと持ち続けた理想である「みさ
かえの園は聖母マリア様に奉献され
た事業であり、さらに聖母によって
神様に捧げられた事業です」この思
いを大切に受け継いでまいりたいと
思います。平成30年新年を迎え、み

さかえの園が始まって57年目を迎え
ます。この長い歴史の中に重さを感じ
ています。

小長井の山の中に、このような大
きな町が生まれるという事を、その
当時は考えられなかったことで、山
の上のともし火として輝きました。
そして今、一つの時代は終わり、時
代の流れと共に、みさかえの園の小
さなともし火がこの山から下りて世
の光として広がっています。

めぐみの家、むつみの家、のぞみ
の家、あゆみの家の4つの施設が、
それぞれ目的を持って順次創設され
て参りました。創立当初は施設慰問
団体が大勢来園されました。その頃
は、まだ珍しく人々の関心の的であ
り、慰問に来られた方達が利用者の
懸命な生きる姿を見てかえって力づ
けられ、涙を流し帰って行くことが
多かったことを覚えています。

必要性から広がり成長していった
みさかえの園は、神様のみ栄のため
そして人々の命の大切さを伝えた
かったのです。これからみさかえの
丘から降り、人々の中に入っていっ
ても変わりなく、より輝き照らすと
もし火となっていたいただきたいと願
います。

人として生まれながら人として愛
されず、人間らしい生活が難しい中
に、姿がどのようなであれ、神様から
創られた人間は、愛されなければな
らないのです。

「あなたがたが、これらの私の兄弟

たち、しかも最も小さい者たちの一
人にしたのは、私にしたのである。」
(マタイ 26:40) というイエスの
み言葉に基づいた理念から始まって
います。

現在では、企業などが施設経営に
参入し、もう宗教関係者がする必要
がないのではないとも言われます。
しかしもともと福祉事業には、営利
を目的とした企業では出来ない奥深
いものがあります。外見は同じ施設
であります、しかしその奥に神様
の存在を見なければならぬことを
どの宗教関係者も思うところです。
外見には見えないその奥に続く施設
づくりが大切であると考えています。
人間は肉体の生命だけでなく、永遠
に生きる魂を持っています。その魂
の救いを見つめています。一人ひと
りを最後まで大切に社会福祉法
人であるように、職員の皆様と共に
励んでまいりたい決意でございます。今
後ともよろしくお願いいたします。

社会福祉法人聖家族会

職員の集い

講話要約

昨年11月29日、当法人全職員の集いに於いてお話しいただいた萩原師の講演を、ここに掲載させていただきました。この集いに参加出来なかった職員も多くおられますので、今一度みさかえの園の源泉を理解し、共に働く喜びと希望を深めてまいりたいと思います。

テーマ

法人・施設創設者たちの生き方・考え方をみて

―法人・施設が大切にしなければならないものは何か―

社会福祉法人聖ヨゼフ会 理事長 萩原 栄三郎
社会福祉法人聖家族会 評議員

今日、皆様にお話ししたいことは、社会福祉法人聖家族会みさかえの園の創設者である方々についてです。創設者のことを知ることは、これから法人として、又施設として充実発展に繋がっていく上でも有意義であると思うからです。ちょうど、大河を美しく保ち、大切にすることに繋がると思うからです。

最初に、社会福祉法人聖家族会みさかえ園の創設者である、聖母の騎士修道女会の創立者であるミエスラオ・ミロハナ神父様のことです。

神父様は、昭和5年8月25日にコルベ神父様と来日した方です。昭和15年5月13日～昭和27年3月20日までの12

年間、日本における準管区長代行として、戦時中、又戦後の最も困難な時に、同会員や戦災孤児の為に最善を尽くされました。ミロハナ神父様は寸暇を惜しんで、熱心に祈り、又仕事に打ち込んでいる姿をみかけました。彼は自分が上長として特別扱いされるのを好みませんでしたが、私たちには、祈り、犠牲、仕事の必要性和大切さを熱心に繰り返し説いていました。

祈りは神様との一致の為、神の御心に合わせた生き方をする力をいただく為に。犠牲は、キリストが教えてくださった愛に生きるために。仕事は、自己の怠慢を防ぎ、隣人に仕える為に。そして、マリア様の生き方こそ、私た

ちの模範であると諭されました。ミロハナ神父様は、ポーランド人とか、日本人と言う区別用語が嫌いでした。「私たちはみな兄弟です。私たちはみな神様の子どもです。」と。彼は、肌の色、言語、国籍、身分等の違いを問題にするのではなく、神様の子どもとしての兄弟性を大切にしていました。

ミロハナ神父様は、どの仕事でも必要であれば、それが自分たちにとって大きな犠牲を伴う者であっても挑戦し、目的達成の為に熱心に取り組み、あきらめることをしない方でした。すべての人が本当の幸せになることを祈り、実践する生活を生涯貫き、平成元年2月15日、天国へ旅立たれました。

二人目は、ゼノ・ゼブロフスキー修道士について、紹介します。彼は昭和5年4月24日コルベ神父と一緒に日本の土を最初に踏んだ一人です。彼は、聖コルベ神父と共に戦前・戦後、困っている人を見過ごすことの出来ない人、自分を惜しみなく使い行動する人、信念を貫く人だったと思います。

ゼノさんは、52年間の日本での働きを終え、昭和56年4月24日天国に旅立ちました。

三人目は、サムエル・ローゼンバイゲル神父様について紹介します。

サムエル・ローゼンバイゲル神父様は、目立たない人でした。昭和11年10月11日来日し、昭和40年3月26日まで準管区長の職にあり、私たちの大恩人と

言っても過言ではないと思います。そして昭和56年11月7日天国に旅立たれました。

この3人の宣教師に共通していることは、「神を全身全霊を持つて愛しなさい。また隣人を自分のように愛しなさい。いと小さな者の一人にしてくれたことは私にしてくれたことである。」というキリストのみ言葉を、具体的に実践し、教えた人たちです。また、「この愛を皆さんと共に実践しましょう」と訴え続け、そしてみんなで真の幸せを味わうように願った人たちでした。そして、何より日本を愛した方たちだったと思います。

これまで、3人のポーランド宣教師の考え、生き方を簡単に紹介しました。彼らの考え、生き方は、常に神を愛し、隣人を愛することに結びつくものを求めています。このことは、彼らが、戦争の犠牲となった日本の戦災孤児たちを、いち早く、自分の兄弟として迎え、自分たちが住む修道院に招き入れ、自分たちの部屋を子ども達に明け渡し、子ども達の衣食住の世話をする為に、自分たちの時間を惜しみなく使い、自分たちに出来ることを精一杯したことでも明らかです。そして彼らは、自分たちの力の及ばないところは、他の人の協力を求めました。その協力者として集まった人たちがいました。

昭和25年12月15日、聖母の騎士修道女会が設立された時、この協力者たち

の中からシスターになることを志願し、シスターの会が誕生しました。シスター方は、創設者たちと心を合わせて、寝食を忘れるほど、戦災孤児たちの為に、日夜献身的に奉仕しました。

戦災孤児たちのことが少し落ち着いた頃、これまで支援の手が届いていない障害者の方々のことに目が留まりました。聖母の騎士修道女会の創立者と心を合わせ、シスター方が中心となって障害者を支援する施設の設立に果敢に取り掛かります。

昭和36年5月1日念願の精神薄弱児の為の家…みさかえの園「めぐみの家」が開園されました。この開園までのシスター方のご苦労は、言葉では表せないものだったと伺っています。

このような困難な状況の中にあっても、昭和41年には「むつみの家」、昭和42年「のぞみの家」、更に、昭和48年には「あゆみの家」が次から次に開園されています。ここに至るシスター方のエネルギーは一体どこから出て来たのでしょうか。

当時のシスター中山和子理事長は、施設設立当時のことを振り返り、「これらの事業は、経済的にも、人的にも幾多の困難に遭遇しながらも、常に神のお助けと聖母マリアのご保護を求めながら、全力を尽くしてきました。そして、多くの方々のご協力があった」と語っています。この短い回顧の言葉の中に、そのエネルギーの出所、又聖

家族会の土台となるものを、はつきりと読み取ることが出来るのではないのでしょうか。こうして現在の社会福祉法人「聖家族会」みさかえの園の施設が誕生し、施設利用者のニーズに合わせて施設作りが現在のような姿に発展して来ました。

私は、みさかえの園の基礎を築いた聖母の騎士修道女会のシスター方の生き方、考え方についてほとんど触れませんでした。ここにお集まりの職員の皆様には、みさかえの園の歴史を是非紐解いていただきたいと思っています。その中にシスター方が基本に据えている土台となる考え方、生き方を読み取ることが出来ると思うからです。

堅固な家を作るには土台がしっかりとしていなければなりません。同様に、法人も、施設もしっかりとした土台が必要で、この土台とは法人の理念(心)です。創設者達の3人の宣教師の共通の考え方、生き方の土台は、シスター方にしっかりと受け継がれ、大切にされて今日に至っています。

私たちは、自分一人でも出来るわけではありません。一人ですべてのことが出来ないことはありがたいことです。私たちの頭は、考えることは出来ませんが、手足が無ければ思ったことをすることが出来ないのです。目も耳も口も、それぞれが助け合わなければ、仕事が出来ないように、私たちの法人・施設の働きもこれと同じで、個々

の能力の違いがあっても、職員皆が一つの心になって仕事をしなければ、目的を達成することは出来ないでしょう。創設者たちは、私たちにどんな心で一致したら良いかをはつきりと示してくれました。「人の心の底まで見通される神様にお仕えるように、真心こめて利用者の方々にお仕えしましょう。」という事です。

結びにあたって

私たちは、利用者の方々の為に奉仕していると思っていますが、むしろ反対に、利用者の方々に私たちは奉仕していただいているのです。利用者の方々の奉仕は、私たちが神の姿に、神の目線で物事を観れるように、神の大きな愛の心を持つ真人間になれるように創り変える作業なのです。私たちがこのことに気づき、利用者の方々に感謝する日々となれば、創設者たちが私たちと喜び、幸せを分かち合おうとした目的は達成されたことになります。

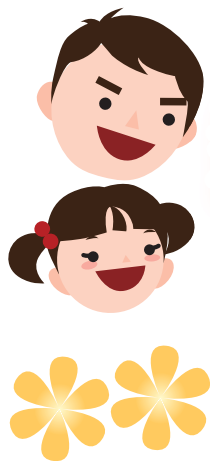
彼ら創設者たちが私たちに伝えたかったことは、財産の増やし方、地位の高め方、名誉を得る方法を教えることではなかったのです。彼らは自分たちの生き方を持って、隣人を自分のように愛するとは、小さき者に仕えるとはどんなことか、そして、それは神様を全身全霊をあげて愛しお仕えることと同じであり、そこに、「真の喜びと幸せがある」ことを教え、実践した

のです。彼らはそれをやり遂げました。創設者たちは、自分の目を見開き、耳を澄ませ、弱い立場の兄弟姉妹に寄り添い、自分のすべてを掛けて、誰かがするのを待つのではなく、率先して自分から出来ることから始めたのです。自分を必要としている人たちに、自分が神様から頂いているすべての能力を使って、奉仕しました。

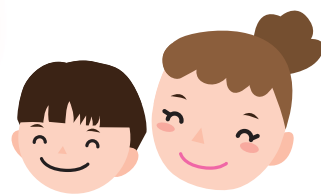
これからは私たちの番です。私たちの使命、任務は、創設者たちが私たちに教え、範を示してくださいましたこと、つまり、隣人を自分のように愛し、小さき者に使える為に、職場のみんなと一緒に汗水を流すこと、そして、喜びを、幸せをみんなと分かち合うことです。私たちそれぞれが、神様から頂いているあらゆる能力を、隣人の幸せの為に惜しみなく使いたしましょう。そうしたらきっと、私たちは自分がより豊かにされ、本当の喜びと幸せを味わうことになるでしょう。

これからも、社会福祉法人聖家族会みさかえの園で奉仕する職員の皆様と施設が、神のいづくしみに満ち、祝福されたものとなることを希望してやみません。

そして、この施設を利用する方々が、いつも、慰められ、安らぎを得られる場所であることを願っています。



親子で笑顔になれる わくわく広場



児童発達支援事業
サービス管理責任者 北村 明子

諫早こどもデイサービスわくわく広場は、長田町に移転して5年目です。児童発達支援事業と放課後等デイサービスを行なっています。また、昨年より新たに、保育所等訪問支援事業を始めました。

週1回の親子通園を基本として、1日定員10名で行なっています。現在、利用登録者は66名です。福田所長を中心に、保育士、介護福祉士、作業療法士、言語聴覚士、心理療法士など、多職種のチームで取り組んでいます。

児童発達支援事業の

活動内容としては、親子でのふれあい遊びや製作、また幼稚園でするような運動遊びや机上課題に取り組んでいます。就園や就学を控えた子ども達が、小集団で活動しながら集団遊びの楽しさを知り、お友達との関わりを増やしていけるよう支援し、幼稚園や学校に繋がりたいと思っています。また、活動後に「振り返りの時間」を設けて、お父さんやお母さんとお話することを大切にしていきます。お子さんの様子を話しながら、成長を共感し、家や幼稚園で困っていることを聞いて一緒に考えて、少しでもご家族に寄り添った支援となるよう努めています。



放課後等デイサービスは、小学生を対象とした集団療育で、集団ゲームや製作、季節に応じて野菜の栽培などを行なっています。放課後の短時間利用となりますが、職員と話したりイキイキと楽しく過ごしたりする中で、ストレス解消や社会性を育むことを大切に支援しています。

今年から本格的に始めた保育所等訪問支援事業では、利用しているお子さんの通っている保育園や幼稚園、小学校を訪問して、直接指導や先生とお話を行なっています。子ども達がどんなことに困っているのか、どのように対応したら良いかなど、共通の認識を持って支援していきたいという思いで取り組んでいます。



そして、わくわく広場でとても人気なのが、月2回土曜日に行われる『わくわく親子デー』です。普段の療育と違って、お父さんや兄弟児、おじいちゃんおばあちゃんまで参加して、皆で楽しい活動を行います。こどもの城や諫早公園、消防署など、地域資源を活用して様々な活動を行なう中で、家族の笑顔を見ることができて、私達職員の活力にも繋がっています。今年はバスや電車などの公共機関を使って出かけましたが、子ども達は初めての体験に目を輝かせて参加していました。今後もご家族で楽しくお出かけすることに繋がればいいなと思います。

今後も、親子で安心して通える広場、笑顔の絶えないわくわく広場であるよう、職員一同、持ち前の『元氣・やる気・〇〇気』で頑張ります！



のぞみの家は、平成30年1月1日より、定員80名にて新しく申請し、承認を頂いたので、職員一同、新たな年、新たな気持ちで、利用者様への支援にとり組んで行きたいと思っています。

昨年末には、職員配置基準が、定員86名の利用者様に対して不足となり、減算という厳しい状況でしたが、法人の理事長様をはじめ、常務理事様、各施設長様の御寛大な計らいによりまして、職員の法人内異動等をしていただきましたので、1月よりは配置基準を満たす事が出来ました。心から感謝申し上げます。定員80名ですが現員は当分のあいだ85名ですので、支援は大変と思っています。それに加えて、高齢化による、種々の機能低下も著しくなっておりますので、利用者様の健康と安全を最優先として、今年度の行事等を計画し、一人ひとりの利用者様が、充実した毎日を送れるようにと願っています。新しい年にも神様の祝福とマリア様、ヨゼフ様、諸聖人の方の御保護を願います。お祈りいたしております。

のぞみの家に就職して

生活支援員 原田 美里

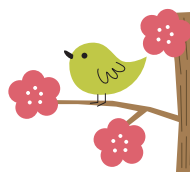
高校を卒業後、四月からのぞみの家に就職しました。初めての介護の仕事で入職したばかりは不安でいっぱいでした。介護の仕事は、人間相手の仕事で毎日色々なことが起こるので、戸惑ってしまうこともたくさんありました。しかし今は、名前を覚えてもらい声をかけてもらったり、利用者の方々から日々色々なことを学ばせてもらい、仕事の中に楽しみも少しずつ見つけられるようになりました。

また、のぞみの職員の方には、言葉使いや利用者様との接し方など教えてもらうことが出来ます。右も左もわからず戸惑うことが多かったが、職員の皆さんが優しく接してくださって、ここまで来ることができました。

これからは、技術を身につけていくことはもちろんですが、人としても大きく成長できれば良いと思います。



リズムにのって楽しくダンス



“ヤッター”パンをゲット!!



『喜び』

グループホームりん 鶴田 睦恵

地域の中で生活する。地域の一員として自立して生活したい。それぞれのゆめを集めた“ゆめハウス”が小長井町にスタートしゆめの架け橋として“にじハウス”それから地域の中での“コーポいずみ”へと広がり、利用者5人のスタートから現在は38名です。年齢も19歳から65歳と幅が広くなり、それぞれの生活スタイルも変わってきました。

一日の始まりは朝食から全員そろってではなく、それぞれの生活スタイルに合わせて、ちょっと遅れて食べる方もいらっしゃいますが、マリア様への祈りは欠かさず行われています。出勤時は「忘れ物ない？」の声とともに「あれ！ない」の声が返りバタバタです。

夕方ホームでは元気に「ただいまー」「きつかった」「今日工賃よかったよー」などの声で帰られ、にぎやかになってきます。

帰宅されるとほとんどの方が、居室でテレビを見たり、CDを聞いたり好きなことをして過ごされます。その後は、お風呂に入って一日の疲

れを落とされ次の日の準備をして早めに休めます。

週末の土曜日は自分達でお昼のご飯を買いに近くの店へ行ったり、ヘルパーを利用して買物やカラオケ、趣味のパッチワーク教室やフラワー教室、乗馬、コンサート、映画等に出かけるなど、行く場所も広がってきました。ヘルパーとの日程調整の関係で希望通りに皆さんの外出が来ず、ゆずりあってもらったりすることもありますが、バスに乗ったり、JRを利用したり、回を重ねるごとに一人で外出が出来るようになる方達も増えてきています。

地域のガン検診や地区運動会の参加。また、地域の方をホームへ招待し自分たちのことを知ってもらうなど地域の中に参加して、地域と共にを目標に暮らしています。

地域の中でしっかりと生活される皆さんをサポートできることが、私たちグループホームの職員の楽しみであり、幸せです。



バスを利用したの外出



ヘルパーさんと外出



ホームへ招待



地区の運動会へ参加



消火器訓練参加



日韓カトリック大学学生ボランティア

ーフランシスコ・ボランティアキャンプを終えてー

昨年日本の長崎で開催された標記ボランティアキャンプ（8月16日～23日）のうち、4日間みさかえの園各施設・事業所に於いて17名の学生ボランティアを受入期間中、外国の方々へのご配慮、気遣い等暑い中、心身休まる暇もなかったかと思います。このボランティア活動を通して貴重な学びの機会を共に得ることが出来、お一人おひとりの努力のお蔭で成功裏に終えたことを感謝いたしております。

主催者側より、フランシスコ教皇のメッセージ「貧しい人々との連携と奉仕」その実践的プログラムとしての催事を滞りなく終えることが出来たことを感謝しておられましたことを職員の皆様にお伝えいたします。《法人事務局》



各施設の住所

ホームページ

<http://www.misakae.or.jp/>

○社会福祉法人 聖家族会 法人事務局

☎859-0167 ☎0957-34-4520 Fax 0957-34-4521
長崎県諫早市小長井町遠竹2747-6

- みさかえの園第二めぐみの家
長崎県諫早市小長井町遠竹2727-10
☎0957-34-3112 Fax 34-2044
- みさかえの園のぞみの家
長崎県諫早市小長井町遠竹2727-1
☎0957-34-3114 Fax 34-3612
- 諫早こどもデイサービスわくわく広場
諫早市長田町1470
☎0957-20-4120 Fax 20-4121

- みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家
- みさかえの園児童発達支援センター
長崎県諫早市小長井町牧570-1
☎0957-34-3113 Fax 34-3526
- みさかえの園あゆみの家
長崎県諫早市小長井町遠竹2727-3
☎0957-34-3115 Fax 34-3045
- ワークスペースあん就労継続支援B型事業所
長崎県諫早市小長井町遠竹2727-1
☎・Fax 0957-34-2371

- みさかえの園サテライトセンター ☎859-0121 諫早市高来町泉196-1
☎0957-32-2535 Fax 32-2536

- ・相談支援事業所スマイルサポート
- ・生活介護事業所デイスペースあん
- ・居宅介護事業所みさかえヘルパーステーションひびき
- ・共同生活援助事業所グループホームりん